

関口雄揮記念美術館 所蔵作品展

# 見えるもの 見えないもの



会期 / 2012年10月27日(土)~2013年2月17日(日)  
休館日 / 月曜日(祝日の場合は翌火曜休館) 12月28日~1月8日  
開館時間 / 午前10時~午後4時30分(入館は午後4時まで)

# 見えるもの 見えないもの

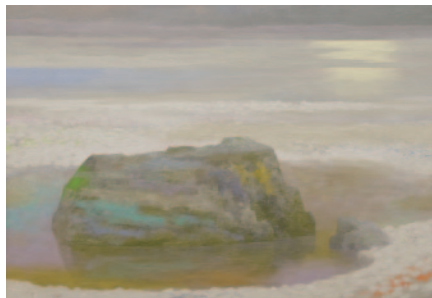
表の作品：《彩る》(部分) 2003年

※ 学芸員によるギャラリーツアー 随時受付

写実的な描写を持ち味としながら、非現実的な彩色によって幻想的な風景を描き出す関口雄揮。彼が風景のなかに見出そうとしたものは、いったい何だったのでしょうか。

作品に表れるそれは、年代によって大きく変化します。初期の作品では、形や色といった目に見えるものが描かれ、それがしだいに、光や風などの形のないものへと変化してゆく様子が窺われます。その後さらに、寒さや静けさなどの雰囲気や気配へと関心がうつり、やがて救いや希望といった、画家自身の内面が投射されるようになってゆきます。

本展では初期から晩年までの作品を展示します。各年代における、こうした関口のまなざしの先にあるものの変化をご覧ください。



《川原》1972年



《霧氷の川》2007年

## ◎第2展示室：新収蔵作品展

関口雄揮記念美術館では、画家の没後もアトリエに残されていた作品や、遺族らが所蔵されていた作品を、購入または寄贈により収集してきました。本展では、2011年度末から2012年度にかけて収集された最新の収蔵作品のうち、日本画作品全8点と、スケッチ作品の一部を紹介します。



《早春湖》年不明

## ◎第3展示室：二河白道図 小下図

関口の代表的な仕事である永観堂禅林寺の障壁画のひとつ、釈迦堂襖絵《二河白道図》の小下図を紹介いたします。関口は浄土教絵画の画題として長い歴史をもつ「二河白道図」を現代風に解釈し、自然の猛威への畏怖を込めて襖絵を描きました。これらの小下図からも、関口が自然をいかなるものとして見ていたのかが感じられるでしょう。



《渦潮》2003年



《炎》2003年

## ◎関口雄揮記念美術館

日本画家・関口雄揮（せきぐちゆうき）の作品を所蔵、展示する美術館。年間3回の所蔵作品展の他、館外での特別展示やお茶会などのイベントも開催しています。

### 展示スケジュール

- 第1期：2月～6月
- 第2期：6月～10月
- 第3期：10月～2月

※展示スケジュールは変更となる場合があります  
 ※各会期の間では、展示替え作業のため1週間程度休館させていただきます  
 ※ご来館の際はホームページまたはチラシなどで会期をご確認ください



## ◎Cafe ボザール

館内併設のカフェ。明るく開放的な空間で、周囲の景色を楽しみながらご休憩いただけます。カフェのみでもご利用いただけますので、お気軽にお立ち寄りください。

### Menu

- コーヒー ¥500
- ココア ¥600
- 抹茶 ¥600
- フルーツハーブティー ¥450
- レモンスコーン ¥250
- 抹茶シフォンケーキ ¥400
- アイス3種盛り ¥500
- 他



## ◎ご利用案内

### 入場料金

	大人	大学 専門学校生	中高生	小学生	幼児
通常	¥800	¥600	¥400	¥200	無料
リピーター※1	¥600	¥400	¥200	¥100	無料
芸森※2 / 団体※3	¥700	¥500	¥300	¥100	無料

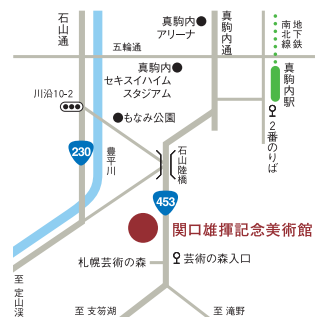
※1 当館入場券の半券をお持ちの方 ※2 札幌芸森美術館の観覧券をお持ちの方  
 ※3 15名様以上の団体

敬老優待（要敬老手帳）¥600 障害者優待（要障害者手帳）通常料金の半額 前売り券 ¥600

### アクセス

◎地下鉄・バスをご利用のお客様  
 地下鉄南北線「真駒内」駅バス2番乗り場より中央バス乗車（約14分）「芸術の森入口」下車  
 真駒内方面へ徒歩1分

◎お車をご利用のお客様  
 札幌市街中心部より国道453号線を南下支笏湖方面へ（約40分）  
 専用駐車場あり



# 関口雄揮記念美術館

〒005-0853 札幌市南区常盤3条1丁目（芸術の森入口）  
 TEL 011-593-5050 <http://www.sekiguchi-muse.jp/>